

司式:大谷 昌恵
奏楽:吉田千鶴子

聖なる主なる神様。聖名を崇め、賛美致します。

前奏:「神もし我らと共になかりせば」(J.N. ハンプ)

5月最初の主日、今日もこうして、あなたに新しい命を与えられ、御前に礼拝する者として呼び集められましたこと、心より感謝致します。

招詞:眠りについている者、起きよ。死者の中から立ち上がれ。そうすれば、キリストはあなたを照らされる。(エフェ5:14)

私達は、この1週間も、あなたからの大きな恵みと祝福とによって、この世の旅路を歩んでまいりました。しかし、あなたの御言葉に背き、御心に適った行いをする事ができなかったことを、ここに懺悔致します。

讃美歌:17「聖なる主の美しさ」

神様、私達がどうか、あなたのお恵みをこの身に受けて、その恵みを、他の人たちにも伝えていくことができる者とならせてください。そして新しい月も、あなたのお導きに従い、御言葉に聞き従いつつ、あなたに守られて生きて行くことが出来ますように、どうぞ、私達の日々の生活をお守りください。

罪の告白・赦し

聖霊を求める祈り

朗読聖書①詩編 55:16-24

- 16 死に襲われるがよい/生きながら陰府に下ればよい/住まいに、胸に、悪を蓄えている者は。
17 わたしは神を呼ぶ。主はわたしを救ってください。
18 タベも朝も、そして昼も、わたしは悩んで呻く。神はわたしの声を聞いてください。
19 闘いを挑む多くの者のただ中から/わたしの魂を贖い出し、平和に守ってください。
20 神はわたしの声を聞き、彼らを低くされる。神はいにしえからいまし【セラ/変わることはない。その神を畏れることなく
21 彼らは自分の仲間に手を下し、契約を汚す。
22 口は脂肪よりも滑らかに語るが/心には闘いの思いを抱き/言葉は香油よりも優しいが、抜き身の剣に等しい。
23 あなたの重荷を主にゆだねよ/主はあなたを支えてください。主は従う者を支え/とこしえに動揺しないように計らってください。
24 神よ、あなた御自身で/滅びの穴に追い落としてください/欺く者、流血の罪を犯す者を。彼らが人生の半ばにも達しませんように。わたしはあなたに依り頼みます。

神様、私達は今日こうして御前に集い、またライブ配信を通して礼拝に与ることができていますが、そうしたくてもできない友がいることを覚えます。お年を召して思うように動くことができない方、心と体に不調を覚える方、それらの人を傍らで見守る方、また、主日の今日もこの世の働きにある方もいらっしゃる。どうか、礼拝に与ることができない方々の上にも、ここに居る私達と同じ恵みがあなたから注がれますようにと心から願います。

神様、今日、日本全国、また世界中であなたへの礼拝が行われ、賛美と祈りが献げられ、御言葉が語られます。どうかその全ての礼拝の場にあなたがいてくださって、最初から最後まで全てをお導きください。また、特に困難な状況にある教会、牧者不在の教会、災害被災地の教会、また、国と国との紛争のさなかにある教会の礼拝を祝してください。

朗読聖書②マタイによる福音書 6:25-34

◆思い悩むな

- 25 「だから、言うておく。自分の命のことで何を食べようか何を飲もうかと、また自分の体のことで何を着ようかと思ひ悩むな。命は食べ物よりも大切であり、体は衣服よりも大切ではないか。
26 空の鳥をよく見なさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、倉に納めもしない。だが、あなたがたの天の父は鳥を養ってください。あなたがたは、鳥よりも価値あるものではないか。
27 あなたがたのうちだれが、思ひ悩んだからといって、寿命をわずかも延ばすことができようか。
28 なぜ、衣服のことで思ひ悩むのか。野の花がどのように育つか、注意して見なさい。働きもせず、紡ぎもしない。
29 しかし、言うておく。栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。
30 今日は生えていて、明日は刈に投げ込まれる野の草でさえ、神はこのように装ってくださる。まして、あなたがたにはなおさらのことではないか、信仰の薄い者たちよ。
31 だから、『何を食べようか』『何を飲もうか』『何を着ようか』と言って、思ひ悩むな。
32 それはみな、異邦人が切に求めているものだ。あなたがたの天の父は、これらのものがみなあなたがたに必要なことをご存じである。
33 何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。
34 だから、明日のことまで思ひ悩むな。明日のことは明日自らが思ひ悩む。その日の苦労は、その日だけで十分である。」

今日、私達のために御言葉を取り次いでくださいます佃 雅之牧師を覚えて祈ります。どうぞ、佃牧師が大胆に御言葉を語ることが出来ますように、佃牧師の上に聖霊を豊かにお注ぎください。そして、聞く私達の心を開き、御言葉をしっかりと受け止めることができるようにしてください。

この感謝と願いの祈り、ご復活の主イエス・キリストの聖名を通して御前にお献げを致します。アーメン。

讃美歌:452「神は私を救い出された」

説教 「空の鳥、野の花を見なさい」

佃 雅之

主キリストは今朝の私達に“思い悩むな”と繰り返し語りかけてくださっています。私達が思い悩みを抱えていて、思い悩みから離れることができないことを知っておられるからです。“思い悩むことなく一日を過ごすことができたらどんなによいだろう”と思ひながらも、眠りにつき、時には夢にまで見て、思い悩みから離れることができない日もあるのではないのでしょうか。自分でしなければならぬこと、自分の責任として果さなければならぬと思えることが、^{こまごま}細々としたことから重大な決断に至るまで沢山あります。私達の日常は気がかりなことばかりです。

毎日の生活の中で思い悩んでいるのは私達ばかりではありません。この時キリストの周りに集まっていた弟子達も私達と同じように夫々思い悩みを抱えていました。思い悩みを抱えている弟子達に、今日の私達にキリストは、「空の鳥をよく見なさい。」「野の花がどのように育つか、注意して見なさい。」と言われています。何を見るのか、キリストは何に気づいて欲しいのでし

ようか、神への信頼です。

ここでキリストが「思い悩むな」と言われるのは、私達に“無責任でもいい、浪費してもいい、無用心でもいい”と言われているわけではありません。怠惰と楽観主義を勧めているものでもありません。よく考えて慎重に物事にあたり、必要な配慮を怠らないことは大切なことです。キリストの教えは“慎重で、注意深くある”と同時に、“着いて信仰を持って生きる”ことの勧めです。勿論、鳥も花も全く労苦がないわけではないでしょう。それでも鳥は自由に空を飛び、野の花は美しく咲いています。鳥は「種も蒔かず、刈り入れもせず、倉に納めもしない」、野の花は「働きもせず、紡ぎもしない」、それでも“あなたがたの天の父は鳥を養い、野の花を美しく咲かせている”、鳥や花も私達の父なる神が創造されたものであるからです。神によって自然の中の一つひとつの命が祝福されています。“鳥や花に勝る恵みが注がれているのに、なぜあなたがたは神の恵みに信頼して神に身を委ねることができないのか”、と言われているのです。そのためにキリストは「空の鳥をよく見なさい」「野の花を」注意して見なさいと言われます。なぜなら、「あなた方は、鳥よりも価値がある」、まして、「あなた方はなおさらのことではないか」と言っているのです。「価値がある」というのは、「大切なもの、どうしても失いたくないもの」という意味です。“あなた方はみな私の愛する子、神の子である”からです。

「思い悩む」ということは、“あなたの心に、今、神が不在になっているのだ”という人がいます。なぜ「思い悩む」のかというと、それは、“自分の考えに執着しているからだ”と言うのです。“あなた方の心は全然神に向いていない、あなたがたは何を信じて、何に信頼して生きているのか”、つまり、神が不在の状態でも物事を考えて決断しようとするなら、「思い悩む」ということです。

今日の箇所は、「だから言って多く」という言葉から始まりました。直前の箇所と続けて読むと、「あなたかたは、神と富とに仕えることはできない。(6:24)」、「だから言うておく(6:25)」と、キリストは一つの教えとして語られたこととなります。「思い悩む」というのは「心配する、心配事で悩む」ということ他に、「自分の利益を増やそうとする」という意味がある言葉<μεριμνάω> (μεριμνάω)です。私達が「思い悩む」のは、必要とする以上に遥かに多くのものを得たいと考えているからだということになります。私達は当然、富にではなく神に仕える者です。あなたの心に神が不在になり、富に仕え、自分の利益の奴隷になったなら、その思い悩みは身を擦り減らしてしまうだけです。本来味わうことのできる喜びが取り去れてしまうでしょう。ですから、キリストは「信仰の薄い者たちよ」と警告を与えられています。

誰にでも思い悩みがあります。誰にでも心配事があるものです。「思い悩む」という言葉は、以前の聖書では、あるいは新しい協会共同訳では「思わすらう/煩う」と訳されています。「思い煩い」というのは自分の思いがいろいろ考え過ぎてしまっただけで煩いになってしまう、「思い煩い」、つまり病気になってしまうのです。

今日という日を生きられている喜びと感謝を忘れて思い悩みに捉われている私達は、神の目にどのように映っているでしょう。思い悩むことは神に対する傲慢な姿です。神にお任せすべき事を、自分の力で何とかしよう、解決できると思い込んでいるからです。神に対して謙虚さを失っている姿であります。神がいつも私達との考えとは違った方法を持っておられます。驚くべき仕方で私達を救ってくださいます。時に、私達の望むように神は働いてくださらないかも知れません。人間には、思いもよらない、予測やコントロール出来ないことが起こります。神のご計画は私達の想像

を遥かに超えるものであるからです。ですから、私達は思い悩むことを止めて、今日という日を感謝と喜びで満たして、明日のことは明日を知っておられる神に委ねるのであります。これは諦めでもなく、気休めでもなく、神に信頼する生活であります。なぜなら、32節にある通り、「あなたがたの天の父は、これらのものがみなあなたがたに必要なことをご存じである」からです。

私達は今日も『主の祈り』を共に祈ります。“われらの日用の糧を今日も与えたまえ”と祈ります。“われらに罪を犯すものをわれらがゆるすごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。われらをこころみにあわせず、悪より救い出したまえ。”と祈ります。キリストが『主の祈り』を教えてくださいる前に、何と言われたのかを思い出してください。そして覚えて頂きたいのです。キリストは、“あなた方の父なる神は、願う前から、あなた方に必要な物がなんであるかをご存じだ(マテ6:8b)”と言われました。思い悩む私達は、このキリストの言葉を忘れていただけなのです。父なる神が私達の必要の一切を知っていてくださることを、私達の方が信じることができているだけなのであります。

今日、この礼拝で、繰り返し「思い悩むな」と語ってくださるキリストにも心配事がなかったわけではないのです。キリストと弟子達は福音を宣べ伝えるために色々な所を旅されます。旅に出る時、十分な食べ物を持っていただけではありません。着る物もお金も沢山ありませんから、今日の食事をどうしようか、今夜はどこに泊まるか、キリストも弟子達も毎日考えました。心配事を解決するために、福音を宣べ伝えるために、一人でも多くの人を救い出すために、考えること働くことは必要なことです。労苦もあります。しかし、キリストは思い煩うことはありませんでした。父なる神に信頼していたからです。心配事がある時に、本当の助けになるのは神への信頼です。私達には神の御心に従うこと、信仰を土台とした御言葉に示されている計画を知ることが大切なのです。人間の思い高ぶった計画が、かえって思い悩みの種になる取り返しのつかない悲劇を生むことがあります。なぜなら、私達の明日は私達の支配の下には無いからです。明日は神が支配しておられます。明日何が起るか私達には知らされていないのです。知ることのできない明日の事で思い悩んでいるなら、今日の事が今日為すべき事が疎かになってしまいます。今日、生きられている与えられた一日への喜びと感謝が失われてしまうことになるでしょう。私達に求められていることは、その日その日を喜びと感謝をもって生き、その時その時に、与えられる課題に労苦しながらも、私達の必要を全てご存知である神を信頼して歩むことです。“思い悩むな”というキリストの語りかけは、“心配しなすらうがよいよ。なるようにしかならないのだからよくよするな”という意味ではないのです。あなたは一人でこの苦難の中に投げ出されたのではない、全く孤独に苦難に立ち向かわなければならぬのではない、あなたの父なる神があなたの傍らに立っている。だからキリストは“空の鳥を見よ。野の花を見よ”、と言われています。この言葉は、“全てを創造された、あなたを創造された天の父を見よ”という意味でもあるからです。“思い悩みから抜け出すことができないときは、空の鳥を見て、野の花を見て、父なる神の恵みを、計り知れない決して尽きることのない愛を思い起こして欲しい。日々の思い悩みは全て主に委ねて、神の国と神の義を求めことに集中することだ”と言われています。

「神の国」というのは目には見えません。しかし私達は知っています。「神の国」は、今日も神が生きて働いてくださり、私達に計り知れない恵みを注いで愛で満たし支配してくださる世界です。「神の義」というのは、“この世の常識や規則に照らして正しいということではなく、神が人間にお求めになる相応しい生き

方”という意味の言葉です。神が“喜ばれる”、神が“それでよしい”と思われることが「義」という一字に込められています。“神の国に生きる、神の義を求める”ということは、“神の御心を行う”ことであります。御心を行ない、御心を受け入れることが思い悩みを取り除く方法です。私達が追い求めるべき事は何か、それは、「何よりもまず神の国と神の義を求める」ことなのです。信仰の小さい私達を、思い悩む私達を、罪に沈む私達を救い生かしてくださる神の恵みを信じることであります。

「わたしは神を呼ぶ。主はわたしを救ってください」

「夕べも朝も、そして昼も、わたしは悩んで呻く。神はわたしの声を聞いてくださる」。

今日、旧約聖書から読まれた詩編17節と18節の言葉です。この歌を歌った詩人は、かつて苦しみの中で神と出会い救われたことがあったようです。しかし今も、邪悪な敵による憎悪に満ちた攻撃を前にして恐怖と不安に襲われています。この時の詩人を最も苦しめたものは敵の攻撃よりも、「彼らは自分の仲間を手を下し、契約を汚す」とあるように、親しい友の裏切りでした。詩人は二重の苦しみに襲われ、あまりの苦しさにより一度は逃げ出そうとしましたが、その時、23節の「あなたの重荷を主にゆだねよ/主はあなたを支えてくださる」、この御声を聞きます。苦難の真っ只中であってこそ神が介入してくださる事が告げられるのです。今、苦難にある者は場所を変えて苦難を逃れるのではなく、神へと逃げ込むことが最も確かなことである、神こそが苦難に出口を用意してくださる唯一のお方であるからです。

大切なことは苦しいところから逃げ出すのではなく、その場でその重荷を主に委ねることです。本当に全てを主に委ねるなら、重荷に押し潰されそうになっていた私が、その重荷を負ったままで力強く歩む者に変えられます。神が支えてくださっていることを知る時、重荷は重荷でなくなります。

私達が苦しむのは、思い悩むのは、自分の重荷の一切を無条件に神に委ねていないからです。主が許らってくださいることを信じ、天を仰ぐ、そして祈る、それが“何よりもまず神の国と神の義を求めることになる”でしょう。私達は人生を一日一日神から与えられ、神の見守りの下で与えられた限りの力を尽くし、与えられたものに対する感謝と“決して見捨てられることはない”という確信を持って生きる者でありたいと思います。“明日のことまで思い悩むな。その日の労苦はその日だけで充分である”と語りかけてくださるキリストの言葉を信じて、私達も鳥のように自由に羽を広げて、野の花のように光をくださる神を仰ぎ見て、今日を精一杯生きたいと思います。

“空の鳥、野の花を見なさい”と言われるキリストは、私達に“心を神に向けなさい、父なる神に信頼せよ”とされています。

お祈りを致します。

聖なる神。あなたが今日も私達を豊かな祝福を以て礼拝に招いてくださいましたことを感謝致します。

毎日、思い悩んでいるばかりの私達を闇の中から救い出してください。私達の思い悩みをあなたは全てご存知です。私達の罪さえも、キリストが引き受け贖ってくださいましたことを覚えます。その恵みを信じる者として歩ませてください。どうかイエス・キリストを信じる信仰によって、私達を守ってください。何よりもまず、神の国と神の義を求め続けることができますように、御言葉に立ち、聖霊が私達の内に宿り導いてください。

主の聖名によって祈ります。アーメン。

讃美歌:579「主を仰ぎ見れば」

聖晚餐 ニカイア・コンスタンティノポリス信条の告白 和解の挨拶

讃美歌:78「わが主よ、ここに集い」

献金・感謝(山本典子)・主の祈り(讃美歌21 93-5A)

聖なる神様、尊き聖名を賛美致します。どうぞ、平和の御国を来たらせてください。復活節の喜びと感謝の中で、本日もあなたを賛美礼拝し、御言葉を頂戴し、そして今、聖晚餐の恵みに与れましたことを心から感謝致します。どうぞ、その場その場で礼拝に与っている肢々にも同じ恵みがありますように。

日々の思い煩いを捨てて、あなたを信頼し、この1週間も歩むことができますように。

私達は思い煩わないように日々必要な物を与えて頂き感謝致します。その中から献身と感謝の徴を献げました。教会のご用のためにお用いください。

主イエス・キリストが教えてくださいました「主の祈り」を共に祈りまして、この1週間の歩みを始めさせてください。「主の祈り」…アーメン。

派遣:讃美歌90「主よ、来たり、祝したまえ」

派遣と祝福 <司式:主は言われます。「私は誰を遣わすべきか。会衆:私がおりにいます。私を、お遣わし下さい。司式:「父が私をお遣わしになったように、私もあなた方を遣わす」と主は言われる。キリストの平和の使者として行きなさい。>

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共にあるように。アーメン。

報告:(1)配布チラシ『花東』上映会&アフタートークの案内、(2)教会学校スタッフの紹介
後奏:「キリストはよみがえりぬ」(J.S.バッハ)